

# J A U W

発行所 〒160-0017  
 東京都新宿区左門町11番地6の101  
 社団法人 大学女性協会  
 電話 03-3358-2882  
 F A X 03-3358-2889  
 http://www.jauw.org  
 E-mail: jauw@jauw.org  
 発行人 青木 怜子  
 編集責任者 端 本 和子

## おもな記事

- 1面 2011年度JAUW全国セミナー、一般社団法人移行認可が決定、東日本大震災災害地支援事業報告
- 2面 セミナー写真、時のかたち
- 3面 国際ネットワーク事業、理事会から
- 4面 2011年度国際奨学生報告、JAUW新春のつとめ、ほか

## 一般社団法人移行認可が決定

前号にご報告したように7月22日に電子申請を行った後、8月31日には公益認定等委員会事務局で2名の担当官よりヒアリングを受けました。主な質問事項や指摘箇所は会計書類に関するもので、早速に申請書の一部を修正・修正し、質問事項に対する説明文等を送付しました。その後、数回の質問がありました。すべてクリアされて申請書は確定、公益認定等委員会の審査に付されました。10月14日に担当官からの内示があり、21日に一般社団法人移行認可が決定したとの連絡を受けました。ただし、当法人は平成24年4月1日に移行登記を希望する旨申し出ているため、まだ認可証は交付されず、認定等委員会のHPに「答申書」が公開されています。登記は認可日から2週間以内に行うため、24年3月20日頃の日

準備委員会委員長 阿部 幸子

付で認可証が交付される予定です。2007年度に公益社団法人申請のための特別委員会が設置され、一般社団法人認可申請に向けた準備特別委員会に引き継がれ、4年余りの長きに亘った作業もようやく終わりました。今年度中は引き続き特別民法法人として現行の定款のもとで運営されますが、4月1日の移行登記後は2011年度総会で承認された新定款が施行され、5月には一般社団法人としての定時総会を迎えることとなります。なお、2011年度決算に基づき、改めて公益目的財産額及び公益目的支出計画の実施期間を確定することになりますので、円滑な移行ができるよう各支部では今年度の決算を早めにご準備いただきますようお願いいたします。

## 2011年度JAUW全国セミナー「改めて問う、」

### 「市民社会を構成するNGO活動」とは

2011年10月15日(土)・16日(日)

設立行政法人 国立女性教育会館にて

主催 社団法人 大学女性協会

企画委員長 高田 武子

昨年のテーマに基づき本年度全国セミナーは、テーマを市民社会に目を向け、NWECCで2日間、開催された。1日目は開会式につき支部研究報告委員会調査報告書として懇親会、2日目は基調講演、パネリストスキャッシュン、懇談、全体会議と大変盛り沢山の内容であった。支部報告は、静岡支部「多文化共生活動助成・研究奨励事業」の実施から見えてきたこと、神戸支部「モロッコにおける助産婦を対象にした産痛緩和プログラムの開発」、新潟支部「企業におけるワークライフバランス推進の取り組み」新潟県ハッピーパートナー企業アンケート調査、神奈川県支部「市民社会を構成するNGO活動とその可能性」―神奈川県支部報告―、岡山支部「最近の大学女性協会岡山支部活動を「市民社会を構成するNGO活動」として改めて見つけ直す」、福井支部「誰が担当?地域で支える高齢者介護」。委員会報告では、国内NGO委員会、女性を政策方針決定の場へ―割当制(クォータ制)の導入を―、教育委員会「ジェンダーの視点から家庭教育を考える」、社会福祉委員会「高等学校家庭科教育にみる福祉教育の現状について」、国際奨学委員会は、本年度の国際奨学金の授与者ヴィナス・チャウさんの「日本での研究目的と香港大学女性協会の活動について」の報告があった。各支部・各委員会の研究テーマはそれぞれですが、全体を通して、「男女共同参画社会の意識が十分に浸透していない」「他団体との協働・連携の必要性」などが、意識づけられるに至った。懇親会

は東京支部の司会・進行で進められ、楽しい交流の場となった。2日目は放送大学学園理事の大西珠枝氏による基調講演「市民社会を構成するNGO活動」で始まった。講演では、ODA、NGO、NPOの言葉が生まれてきた時代背景から、何故、NGO(NPO)活動が必要とされてきたか、その意義とは何かなど、詳しく語られ、今後の課題も指摘されながら、NGO団体は、自発的に出来た市民団体(任意団体)として、柔軟に、しかも一点集中的に事業が出来ること、更に、提言(アドボカシー)すること、市民社会への貢献を期待されるとした。続いて、青木会長の司会で、パネリストスキャッシュンが始まり、参画プラネット代表・澁谷典子氏、和洋女子大学教授・中島明子氏、ベネッセコーポレーション次世代育成研究所・後藤憲子氏、茨城支部・城倉純子氏、の4氏にそれぞれの立場から実績を通しての有意義な発言があり、行政と企業とNGO団体との3連携と協働、ネットワークの構築により、より市民の幸せに根ざした活動が出来るという共通点が見えてきた。午後からは、懇談では、基調講演者・パネリストへのQ&Aそして、最後に阿部副会長による全体のまとめとなった。昨年のシンポジウムで浮かび上がった意見、また本年度、支部、委員会から出た意見をまとめ、提言として、国・地方自治体あるいは企業へ提出できれば、2年間に渡るシンポジウムとセミナーの意義を確認できる。提言の内容を理事会に一任することを了承し、閉会した。

(2日間での報告や基調講演、またパネリストの詳しい内容については、本年度報告書に掲載する。)



熱気あふれる質疑応答



セミナー会場風景

## 東日本大震災災害地支援事業報告

特設委員会委員長 高田 武子

東日本大震災災害地支援事業の高校奨学生の選考のため、9月4日、特設委員会を開き、高校1年生2名、3年生3名、計5名の女生徒を決定した。書類選考では、成績、行動の記録、学校の推薦文、そして何よりも応募者のレポート(自分の将来について)を重視し選考した。5人の生徒の被害状況は、家屋の全壊、津波による流出、父親や母親の死亡、また一家の働き手の失職または収入の減少などである。成績は中以上、行動の記録は非常に良好、将来にはしっかりとした目標を持っていることが確認できた。高校3年生の3人は、無くなった母親の職業(美容師)にあこがれ、既に卒業後専門学校への進学が決定している生徒、幼児教育、保育師を目指す生徒たちである。今回は2年生の応募がなかったことは残念であったが、1年生の2人は共に看護師を目指している。また、応募生徒たちが、大きな悲しみや困難の中で、家庭の中でも明るく家族を励ましなが、目標に向かってひたむきに努力している姿が感じ取られ、JAUWの奨学金が生徒たちの将来に希望を与え、そして、それが彼らの自立の一助となるであろうことを信じ、応援出来ることを嬉しく思った。奨学金の支給は、9月分から毎月本人に送り続けられる事になる。(その結果を理事会で承認、合格通知を送付した。)



挨拶をする青木会長

2011年度JAUW全国セミナー  
**「改めて問う、  
 『市民社会を構成するNGO活動』とは」**  
 (2011年10月15日(土)～16日(日))  
 独立行政法人 国立女性教育会館にて

今年度の全国セミナーは昨年の「国際活動と連携するNGO活動」に引き続き、私たち自身が組織するNGOの活動とはどういうものなのか、それが社会にとってどういう意味を持つのか、市民社会の一員として問うものである。

秋の気配が感じられる武蔵野の国立女性教育会館に、全国から約110名が参加。支部や委員会の研究報告、基調講演、パネルディスカッション、活発な討議など、NGOの役割と意味合いを考える上で、貴重な2日間となった。

**時のかたち**

調査・研究担当理事 鷲見 八重子

全国セミナーに先駆けて10月8日(土) 青木会長、阿部副会長のお伴をして水戸に茨城支部の被災お見舞いに行かれた。美しい水戸近郊は、七か月を経てなお屋根にブルーシートが掛かっている家が散見し、支部の3名の方が震災当日の被害と余震の凄まじさを語ってくださったのを聞きながら、報道されていない地域にも大きな被害が及んでいる事を知り胸が痛んだ。ご多忙なか募集された16名もの会員と歓談する中で支部の底力と60年余の歴史を刻むJAUWの繋がり、豊かさを実感し、感謝があふれた。

その翌週の全国セミナーの二日間がまた、新しい一歩を踏み出す一般社団法人JAUWにとって、支部と本部の連携がいかに大切であるかを認識する機会となった。本部の掲げたテーマに寄り添いながら独自の事業を展開する支部の多様性、そして委員会等からの提言を共有することで発揮できる団体の強みがある。さらに全国規模の調査・研究ができれば、本協会ならではの活動が可能となるのである。教育委員会との協働に参画する支部の方々の懇談は有意義で、中でも茨城支

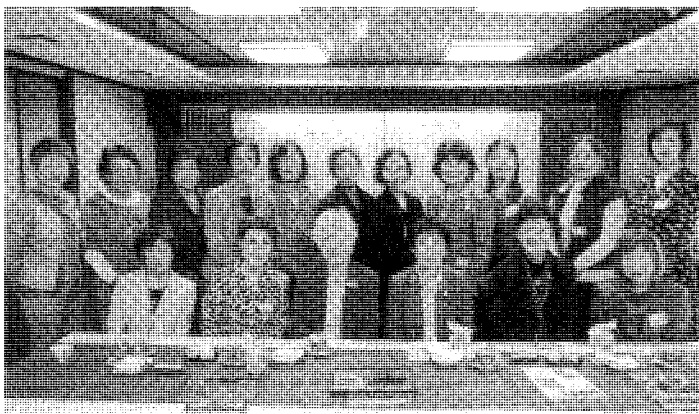
**基調講演**



基調講演をする大西珠枝氏

国際社会におけるNGOの役割が高まる中、日本社会の中でのNGO活動、という視点でお話をいただいた。日本のNPO法(特定非営利活動促進法)はNGOの活動を支援する仕組みとして成立したものであるが、その成立までの過程と社会背景、多くの活動事例や、その後の社会の動き、さらには今後の問題点など、長年行政に携わって来られたお立場ならではの興味深い内容がうかがえた。

部から頂いた多くの意見・提案は、長年の経験に裏打ちされた具体性に富み、実に頼もしい。楽しい時は速く過ぎる。この節目の年のセミナーが瞬く間に終わった感があるのは私だけだろうか。



青木会長、阿部会長、鷲見理事と茨城支部会員の皆様

**支部・委員会発表**

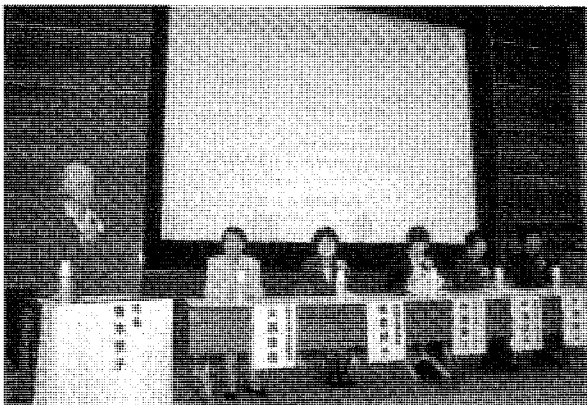


支部研究発表をする福井支部



会場内に展示された研究報告資料(社会福祉委員会)

**パネルディスカッション**



壇上のパネリストの方々

青木会長の司会のもと、パネリストそれぞれの活動現場からの発言と、大西氏のコメントがあった。

全国セミナー2011の報告書は来春発行されます。

**内容 と 日程**

<p><b>I部 10月15日(土)</b></p> <p>開会式                  開会の辞 来賓挨拶                  大学女性協会会長 青木 怜子                  文部科学省生涯学習政策局長 板東久美子                  内閣府大臣官房審議官男女共同参画局担当 武川 恵子                  独立行政法人国立女性教育会館理事長 内海 房子</p> <p>支部研究発表                  司会 城倉 純子</p> <p>静岡支部 「多文化共生活動助成・研究奨励事業」の実施から                  見えてきたこと 勝又 幸子</p> <p>神戸支部 「モロッコにおける助産婦を対象にした                  産痛緩和プログラムの開発」(神戸支部奨学生) 田村 康子</p> <p>新潟支部 「企業におけるワークライフバランス推進の取り組み」                  ー新潟県 ハッピーパートナー企業～アンケート調査ー 仲川 幸子</p> <p>神奈川支部 「市民社会を構成するNGOの活動とその可能性」                  ー神奈川支部報告ー 田中 正子</p> <p>岡山支部 最近の大学女性協会岡山支部活動を「市民社会を                  構築するNGO活動」として改めて見つめ直す 岡崎 優子                  竹井 恵子</p> <p>福井支部 「誰が担当? 地域で支える高齢者介護」 野波比嚙子</p> <p>委員会調査研究発表                  司会 鷲見八重子</p> <p>国内NGO委員会 「女性を政策方針決定の場へ                  ー割当制(クォータ制)の導入をー」 牧島悠美子</p> <p>教育委員会 「ジェンダーの視点から家庭科教育を考える」 下村 辰枝</p>	<p>総合司会 大学女性協会副会長 高田 武子</p> <p>社会福祉委員会 「高等学校家庭科教育にみる福祉教育の現状について」                  遠藤 理枝</p> <p>国際奨学委員会 「日本での研究目的と香港大学女性協会の                  活動について」 ヴィーナス・チャウ                  通訳 平野和子</p> <p><b>II部 10月16日(日)</b></p> <p>基調講演                  演題「市民社会を構成するNGO活動」 放送大学学園理事 大西 珠枝</p> <p>パネルディスカッション                  司会 大学女性協会会長 青木 怜子</p> <p>「市民社会を構成するNGO活動とは」                  パネリスト                  渋谷 典子 参画プラネット 代表理事                  中島 明子 和洋女子大学教授 住居政策専攻                  後藤 憲子 ベネッセコーポレーション                  教育事業部次世代育成研究所部長                  城倉 純子 大学女性協会茨城支部会員                  茨城県社会福祉協議会等理事</p> <p>コメンテーター                  大西 珠枝 基調講演者</p> <p>懇談                  全体のまとめ 司会 青木 怜子                  阿部 幸子                  城倉 純子                  鷲見八重子</p> <p>閉会式                  閉会の挨拶 大学女性協会副会長 阿部 幸子</p>
--	---



# 事業紹介

# 国際ネットワーク事業

国際ネットワーク担当理事 牧島 悠美子

JAUWの4つの継続事業の内、国際ネットワーク事業を本部として担っている3つの委員会について紹介したい。これらの委員会は、国際関連の団体に所属し、JAUWの窓口として連絡をとり、情報を得、JAUWの会員に還元し、必要に応じ、各所属団体で作成する政府や国連、国際機関等への要望書などの原案作成に協力している。国際委員会は主にIFUW、UWA（ア

ジア大学女性連盟）、国内NGO委員会は国際婦人年連絡会、国連NGO国内婦人委員会、女性の地位委員会は国際人権規約完全実施促進連絡会、女性監視機構（JAWW）の窓口となり、活動している。各委員会ともベテラン委員は多いが、若手の委員が少なく、関心のある若手会員がともに活動してくれることを切に願っている。

## 国内NGO委員会

委員長 五十嵐 康子

国内NGO委員会の活動は大別して3つ《1. 国連NGO国内婦人委員会、2. 国際婦人年連絡会分野別委員会、3. 国内NGO委員会》がある。

今回は国内NGO委員会本来の活動として、2011年JAUWセミナーで調査研究について報告した。テーマは「女性を政策方針・決定の場へ一割当制(クォータ制)の導入を」。おりしも9月19日から開催された国連総会の冒頭、ヒラリー・クリントン米国防務長官、ミシェル・バチエレUN Women事務局長をはじめ、世界女性リーダーによって女性の政治参画を進める方法について具体的な勧告を述べた共同声明への調印がなされた。共同声明には世界で女性の国会議員が30%を超える国は28カ国でその内23カ国で何らかの形のクォータ制が取り入れられていると報じている。IPU（列国議会同盟）による世界女性国会議員データによると日本は186カ国中121位である。今回の調査研究を機として次はJAUW各支部と緊密に連携をして各地方での女性議員の活動状況を調査し、割当制実現の方策や選挙制度の見直しの提言につなげたい。

また、委員は連絡会の政策方針参画、労働、家族福祉、教育マスメディア、環境、平和、憲法、国際開発各委員会に出席、現状を見据えて活動している。ご興味のある方は是非ご参加ください。

## 女性の地位委員会

委員長 平井 和子

当委員会には、「女性の地位に関する調査研究を行い、その向上を図る」ことが求められており、「女性の人権・女性の地位向上に必要な活動とその普及」「女性の人権・女性の地位に関する国連会議およびIFUWの実施状況の調査」および所属団体での日本政府への提言の作成などに関っています。

JAUWを代表して国際人権規約完全実施促進連絡会、女性監視機構（JAWW）の窓口となり、構成団体の一員として日本政府への提言の作成などの活動をしています。また今年度は2012年2月～3月に開催される国連女性の地位委員会（CSW）のメインテーマに関連し、「90年代以降の農山村女性の地位の変化と課題」のテーマで（財）アジア女性交流・研究フォーラム主席研究員で、会員でもある篠崎正美氏を講師に、7月9日に公開講演会を実施しました。外部からも多くの参加者があり、有意義な講演会となりました。今後はグリーン・エコノミーについての勉強などを予定しています。

多くの支部からの委員で構成されていますが、委員会活動は東京中心となり、実際の活動に制約のあるのは残念なことです。

新しい方々に是非入会していただき、遠隔地の方でもメールを活用して、御一緒に活動したいと願っています。

## 国際委員会

委員長 穂田 信子

当委員会の役割は、JAUWとIFUW（国際大学女性連盟）とのあいだの情報連絡です。IFUWからは全加盟協会に対して、理事会の協議事項・決定事項、あるいは幅広いニュース記事が平均して月に一度メールで発信されます。さらにIFUW会員のネットワークからも人権問題や世界の動向等が伝えられます。

逆にJAUWの活動も提供し、IFUW・他の加盟協会に資するよう求められており、当委員会は、これら双方向の情報交換をできるだけ幅広く、迅速に行うことに努めています。

三年に一度開催されるIFUW総会前後には、この双方向の情報が一気に増え、加えて総会に参加する会員の便宜も図ることになります。交流や見聞を広めたり、積極的にワークショップ等に関与する会員のための窓口ともなるのです。次期総会は2013年、トルコ・イスタンブールです。

国際大会にはもうひとつアジアの加盟協会を主体とするUWA総会があり、次は、バンコクで来秋開催される予定です。なお、国際委員長は、JAUWを代表してIFUW評議員をつとめます。直近では、理事会の意をうけて電子投票の試行とザンビア協会の入会に対してインターネットで賛成票を投じました。

## 《理事会から》

- 一般社団法人移行認可が決定。詳しい事は1面の記事をお読みください。
- 2012年の総会は5月13日（日）東京で開催されます。
- 宮城県共同募金会より、JAUWからの義援金に対して表彰状をいただきました。
- IDE（現代の高等教育）No.534（11年10月号）に、青木会長の「高等教育の社会還元」と題する論文が掲載された。本協会の歴史と役割を総括。（問合せはJAUW事務所まで）



役員選考委員長 田中正子

※推薦用紙届出の締切日  
2011年12月15日（火）必着  
【付記】

これまで、大学女性協会では、公益法人制度改革に基づく新法人への認可申請中でしたが、10月24日には内閣府公益等認定委員会の答申書が公開され、来年の3月20日頃認可書が発行されることとなりました。4月1日には新法人の登記により新しく一般社団法人大学女性協会として出発いたします。登記の日から新定款が施行されますので、役員を選任につきましては新定款第5章第22条に基づいて行われる予定です。

- 理事（会長）
  - 理事（副会長）
  - 理事（副会長）
  - 理事（書記）
  - 理事（書記）
  - 理事（会計）
  - 理事（財務担当）
  - 理事（国際ネットワーク担当CIR）
  - 理事（調査研究事業担当）
  - 理事（奨学事業担当）
  - 理事（国際支援事業担当）
  - 理事（広報・情報担当）
  - 理事（支部担当・東京支部）
  - 理事（支部担当・他支部）
  - 監事 2名
- ＊ 支部担当理事：支部長または支部長経験者  
＊ 旅費は、100キロ圏以上の場合、JR普通乗車券相当の旅費の補助をする

2012・2013年度 役員候補者推薦のお願い

定款第4章第15条・第18条により、本年度末、理事及び監事の任期が満了になります。したがって、役員選考委員会では、全理事・監事候補者の選考をいたさなければなりません。

つきましては、選考委員会に関する規程第2条により、正会員の方々に次期役員候補者のご推薦をお願いいたします。

理事会では、2012年度総会から2014年度総会までの2年間の役員は、左に示すように理事15名・監事2名としています。

正会員の皆様には、会報とともに同封された推薦依頼状をお読みいただき、推薦用紙に候補者名と推薦役職名をご記入の上、所定の返信用封筒でご返送ください。

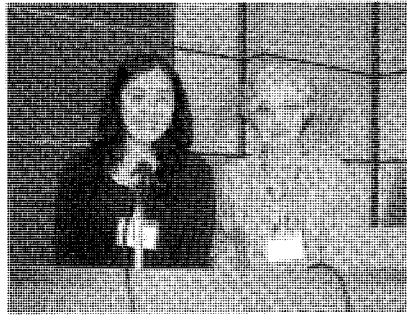
《2011年度国際奨学生報告》

ヴィーナス・チャウさん  
イザベラ・グリツアさん  
エマン・アブデルナビイさん

(香港出身)  
(ポーランド出身)  
(エジプト出身)

国際奨学委員長 平野 和子

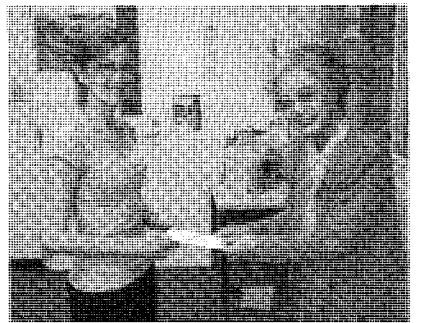
今年度の国際奨学生3名を来日順にご紹介します。  
(1) ヴィーナス・チャウさん(香港出身)・2011年9月15日〜12年3月31日迄早稲田大学アジア太平洋研究所に籍を置き、「香港と日本の女性に見る官能的ダンスによる女性の性的力の構築」というテーマで研究します。先日開かれたセミナーに参加し、研究目的と所属する香港大学女性協会の活動状況を発表(平野が通訳)しました。従来男性を楽しませるものとして蔑視



セミナーで発表する香港のチャウさん(左)と通訳の平野和子委員長

されがちだったベリダンスを習う女性が増えていく現状から、そこに女性をエンパワーする力がある。と見る斬新な発想の研究です。セミナー懇談会では、多くの会員から向けられるその発想についての質問にも、臆することなくこのダンスの魅力を語り、交流の機会を存分に楽しんでいました。  
(2) イザベラ・グリツアさん(ポーランド出身)・2011年10月1日〜12月30日迄、東工大資源化学研究所で『有機金属分子デバイスに関する研究』を行っています。近年電子回路の小型化が大きな注目を集めている中で、電子回路を分子で表現して機能させる分子デバイスの研究が盛んに行われており、本研究ではリード線に対応する直線状の金属化合物を合成してその性能を評価すると、指導教授からご説明をいただきました。来日の動機を尋ねると、日本の文化への関心が深く、日本で研究する機会を探るう

ちにインターネットで本奨学金の存在を知り、応募したところ、カタカナ、ひらがなと漢字180字も覚えてきたということでした。日本語を交え、終始笑顔で浮かべて対応してくれた可憐な姿が印象に残る女性です。  
(3) エマン・アブデルナビイさん(エジプト出身)・2011年10月3日〜12年3月31日迄東京農工大大学院獣医学研究室で『反芻動物の薬物の消化管吸収について』と題する研究を行います。実は彼女のビザ発給手続きを進める中で、6月に出産し、同道するご夫君に赤ちゃんの世話を託して研究する意向であることがわかりました。妊娠の事実を告げられぬままに彼女を選考したことに当惑し、本日に来日で



平野和子委員長より奨学金を受け取るグリツアさん(左)

きるのか不安な日々を過ごすうちに、遅れていたビザが発給され、30数時間のフライトを経て来日しました。訪れた私に、夫と赤ちゃんは途中で帰国するが、自分は6か月滞日して研究を全うするとの固い決意を約束してくれました。イスラム女性の地位が想像以上に高いことを示す一例であり、彼女の勇気とそれを支えるご夫君の献身を称え、これからの女性のロールモデルとなつてほしいと願う気持ちになりました。



東京農工大の研究室でのアブデルナビイさん

以上3人の奨学生が、三者三様に、立派な成果を上げてくれることを期待してやみません。グリツアさんの報告会…12月23日午後1時半から本部事務所で開催。多数のご参加お待ちしております。



JAUW 新春のつどい

今年度も、恒例の「JAUW 新春のつどい」を以下のように開催いたします。

国内奨学金贈呈式は、大学女性協会の大切な公益事業の一つです。未来への希望と意欲にあふれる奨学生のスピーチは、毎年私たちに大きな感動を与えてくれています。懇親会では東京教育大付属盲学校を経て東京女子大学文理学部数学科を卒業され、現在は声楽家、エッセイストとして活躍されている塩谷靖子さんに美しい日本の歌曲を歌って頂きます。会員の皆様、また会員外の方々もどうぞお問い合わせ、多数ご参加くださいませ。

日時 2012年1月7日(土) 11:00~14:30  
場所 新宿 京王プラザホテル本館4F 「花」  
プログラム 1部 2011年度 国内奨学金贈呈式  
2部 懇親会  
ソプラノ独唱 塩谷 靖子さん  
ピアノ伴奏 塩谷 多衣さん  
会食・懇談

会費 10,000円  
申込先 (社) 大学女性協会本部事務所  
Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889  
E-mail: jauw@jauw.org  
申込締切日 2011年12月20日 (12月28日までに振込みください)  
振込先 三菱東京UFJ銀行四谷支店  
普通預金・口座番号1077777  
別口(社) 大学女性協会 理事 青木 怜子  
なおキャンセルは3日前までとさせていただきます。

今回も、財務委員会・東京支部のバザーを行います。どうぞお楽しみに。皆様からの寄贈品を事務所にて随時受け付けております。

(社) 大学女性協会

チャリティーコンサートご案内

災害地支援事業として宮城県の高校生5名が決定し、生徒の皆さんへの奨学金支給が10月(9月分も含めて)からスタートいたしました。その奨学生支援金増収のためにチャリティーコンサートを開催いたしますのでご案内いたします。

三船文彰チェロ名曲の楽しみ  
ピアノ 須関裕子

2011年12月17日(土) 17:00~18:30 (16:30開場)  
会場 求道会館(東京都有形文化財)  
東京都文京区本郷6丁目20番5号  
入場料 3,000円

親睦旅行へのお誘い

東日本大震災のために延期されていましたが親睦旅行を下記のように企画いたしました。今回は金沢、福井ふたつの支部を訪ねて、支部の皆様と交流し、親睦を深めることを目的としていますので、近隣の支部はもとより、この際ぜひ北陸に行つてごらんになりたいと思われる方、どうぞお誘いあわせの上多くの方々のご参加をお待ちしております。

冬の北陸1泊2日の旅……金沢支部と福井支部を訪ねて

日時:平成24年2月28日(火)~29日(水) 宿泊:山代温泉「瑠璃光」  
スケジュール(全行程バスを利用。天候、道路状況等により若干の変更もあります)  
第1日:小松空港(12:00頃)ー金沢駅(12:50)ー昼食ー兼六園など金沢市内観光ー山代温泉へ  
第2日:永平寺ー朝倉遺跡見学(復原町並・義影館跡・湯殿跡庭園・中の御殿跡・諏訪館跡庭園(一乗ふるさと交流館にて昼食)ー福井駅にて解散(15:00頃を予定)  
参加費:おおよそ32,000円(全行程参加の場合)  
宿泊費(夕食、朝食付)、昼食2回、入園・入場料、バス代金をふくみます日帰り参加、宿泊のみ参加も可能です。  
申込み締め切り 2012年1月25日(キャンセルは2月10日までにお願い致します)  
申込み・問い合わせ:(社) 大学女性協会事務所まで  
Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889

第10回 自然科学講演会のお知らせ  
「鉄と植物」

講師 西澤直子会員(科学研究奨励委員会)  
東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授  
本年度紫綬褒章受賞者  
日時 12月17日(土) 14:00~16:00  
場所 お茶の水女子大学 理学部3号館701大講義室  
申し込み 12月14日(水)までにJAUW事務所へ

生物の生存に必須の鉄獲得の分子機構と、それを応用したアルカリ性土壌でも生育できる新種のイネの開発についてやさしく説明していただきます。

今回はお茶大近隣の高校生・中学生にも参加を呼び掛けています。皆様のご参加をお待ちしております。

科学研究奨励委員会(東京支部・お茶の水女子大学共催)

丸大食品 心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。

お歳暮・お中元の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝  
御礼・内祝・快気祝等、いつでもご利用になれます。

丸大食品株式会社

首都圏特販営業課 担当:奥 功

〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2  
TEL 03(3647)3270 FAX 03(3647)3274

